



2024年度（令和6年度）

大学院医学研究科（博士課程）

学 生 募 集 要 項

【試験期日】

第1次募集 2023年10月6日（金）

第2次募集 2024年2月2日（金）

[第1次募集により定員に満たない場合のみ実施]

愛 知 医 科 大 学 大 学 院

2024 年度(令和 6 年度)愛知医科大学大学院医学研究科（博士課程）学生募集要項

【教育研究上の目的】

国際水準の研究遂行能力を有する研究者を養成すること。

【教育理念】

愛知医科大学医学研究科は建学の精神に則り、最新の豊かな学識と研究能力を身につけ、医学研究及び医師育成に指導的な役割を担う国際的医学研究者を養成することにより、医学・医療の発展を通して社会に貢献することを目指す。

【教育目標】

学問の多様化に対応するよう、基礎医学専門研究者養成と先端的臨床研究者養成の 2 つのコースを設け、学際的な視点に立った国際水準の研究遂行能力を有する研究者を育成することを目指す。

【アドミッション・ポリシー】

医学研究科では、以下のアドミッション・ポリシー（入学者受入方針）を設けています。

- 自ら研鑽に励み、高度な技術と豊富な知識の獲得を目指し、自立して研究を遂行しようとする人
- 将来、国際的な視野に立ち、先駆的な研究の展開を目指す人
- 熱意を持って、医学研究・医療分野の指導に当たり、見識を持って社会的貢献に努めようとする人

入学者選抜では、学力試験とともに面接試問を実施し、基礎学力及び専門知識の他、本研究科の教育理念を理解していることを確認し、総合的に評価します。

受 験 者 心 得

- 1 試験当日は、受験票及び筆記用具を必ず持参してください。
- 2 受付は、8時50分から9時40分まで行います。
- 3 受付では、受験票を提示してください。
- 4 試験開始後の遅刻者は、原則として、受験を許可しません。
ただし、公共交通機関の遅延等の事情により、やむを得ず遅刻した場合に限り、試験開始後30分までは受験を許可する場合があります。
- 5 面接試問開始時間は各受験者により異なります。開始時間の5分前には必ず面接室の前で待機してください。
- 6 試験会場への入室、試験の開始及び終了の時刻は口頭で合図します。
- 7 試験会場では、受験票と同じ受験番号の机に着席し、受験票を机上に置いてください。
- 8 試験会場では、答案作成に必要な黒色鉛筆(シャープペンシルも可)、消しゴム、辞書(電子辞書不可)、時計以外の物は、机上に置いてはいけません。(ウェアラブル端末等の機能を有する時計・文具の使用は認めません。)
- 9 携帯電話等を持参している者は、電源を切って、かばんの中に片付けてください。
- 10 受験中は静かにし、もし発言する必要があるときは、手を挙げて合図し、監督者の許可を受けてください。
- 11 受験中に不都合な行為があった者には退室を命じ、それ以後の受験は許可しません。
- 12 受験者に対する当日の連絡は、受付横の掲示で行うので注意してください。

1 募 集 人 員 30名(※)

専 攻	授 業 科 目	募集人員
基礎医学系	細胞生物学（生物学） 解剖学 生理学 生化学 薬理学 病理学 感染・免疫学 衛生学 公衆衛生学 法医学 医学・医療教育学 加齢医科学 神経病態・幹細胞生物学 分子医科学	13
臨床医学系	内科学 精神科学 小児科学 外科学 脳神経外科学 整形外科学 皮膚科学 泌尿器科学 産婦人科学 眼科学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 放射線医学 麻酔科学 総合医学 形成外科学 救急集中治療医学 リハビリテーション医学 臨床感染症学 病理診断学 統合疼痛医学 口腔外科学 救命救急医学 新生児学 がん治療学 緩和・支持医療学 戦略的先制統合医療・健康強化推進学 災害医学 造血細胞移植・細胞治療情報管理	17

※ 入学志願者は、志望する専攻及び授業科目を選び、入学願書の所定欄に記入すること。

※ 大学院設置基準第14条に定める教育方法の特例（夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等適当な方法により行う教育）を受けることを希望する者（以下「教育方法の特例希望者」）を含む。

※ 外国人志願者については、第1次募集が定員に達した場合でも、第2次募集にて若干名の募集を行う。

2 出願資格

- (1) 大学の医学部医学科、歯学部又は修業年限が6年の獣医学若しくは薬学を履修する課程を卒業した者又は2024年3月31日までに卒業見込みの者
- (2) 外国において、学校教育における18年の課程（最終の課程は医学、歯学、獣医学又は薬学の学部）を修了した者又は2024年3月31日までに修了見込みの者
- (3) 文部科学大臣の指定した者（昭和30年文部省告示第39号）
 - ① 旧大学令（大正7年勅令第388号）による大学の医学又は歯学の学部において医学及び歯学を履修し、これらの学部を卒業した者
 - ② 防衛省設置法（昭和29年法律第164号）による防衛医科大学校を卒業した者
 - ③ 修士課程又は学校教育法（昭和22年法律第26号）第99条第2項の専門職大学院の課程を修了した者及び修士の学位の授与を受けることのできる者並びに前期及び後期の課程の区分を設けない博士課程に2年以上在学し、30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた者（学位規則の一部を改正する省令（昭和49年文部省令第29号）による改正前の学位規則（昭和28年文部省令第9号）第6条第1号に

該当する者を含む。)で大学院又は専攻科において、大学の医学を履修する課程、歯学を履修する課程、薬学を履修する課程のうち臨床に係る実践的な能力を培うことを主たる目的とするもの又は獣医学を履修する課程を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者

- ④ 大学（医学を履修する課程、歯学を履修する課程、薬学を履修する課程のうち臨床に係る実践的な能力を培うことを主たる目的とするもの及び獣医学を履修する課程を除く）を卒業し、又は外国において学校教育における 16 年の課程を修了した後、大学、研究所等において 2 年以上研究に従事した者で、大学院又は専攻科において、当該研究の成果等により、大学の医学を履修する課程、歯学を履修する課程、薬学を履修する課程のうち臨床に係る実践的な能力を培うことを主たる目的とするもの又は獣医学を履修する課程を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者
- (4) 本大学院において、個別の入学資格審査により、(1)に掲げる者と同等以上の学力があると認めた者で、2024 年 4 月 1 日で 24 歳に達している者

※ 出願資格(1)に該当する者（獣医学及び薬学を履修する課程の者を除く。）については、医師法に定める臨床研修修了者又は修了見込みの者であることが望ましい。

※ 出願資格(2)及び(4)に該当する者は、事前に出願資格の確認を行いますので、出願期間開始日の 2 週間前までに履歴書及び業績書（様式任意）を提出してください。

3 試験期日等

	第 1 次募集	第 2 次募集
出願期間	2023 年 8 月 1 日（火）から 2023 年 8 月 15 日（火）まで〔必着〕	2023 年 12 月 1 日（金）から 2023 年 12 月 15 日（金）まで〔必着〕
試験期日	2023 年 10 月 6 日（金）	2024 年 2 月 2 日（金）
合格発表	2023 年 10 月 31 日（火） 学内掲示及び大学ホームページへの掲載と併せて合格者に通知する。 （発表に関しての電話等による問い合わせには一切応じない。）	2024 年 3 月 1 日（金）
入学手続期間	2023 年 11 月 1 日（水）から 2023 年 11 月 8 日（水）まで	2024 年 3 月 4 日（月）から 2024 年 3 月 11 日（月）まで
備 考	受付時間（祝日を除く。） 月曜日～金曜日 9：00～12：00, 13：00～16：00	

4 出願手続書類等

(1)	入 学 願 書	所定の用紙に本人が記入したもの。必ず専攻予定の研究指導教授の印を受けること。(該当する希望在学区分に必ず「レ」を付すこと。)
(2)	研究指導教員の 面接試問日程確認票	所定の用紙に、専攻予定の研究指導教授と事前に面接試問の実施可能日時を確認し、研究指導教授の印を受け提出すること。
(3)	成 績 証 明 書	出身大学(学部)長が作成の上厳封したもの。 (ただし本学医学部卒業及び卒業見込の者は不要)
(4)	写 真	2枚 (縦4cm×横3cm。出願前3か月以内に撮影した無帽正面上半身 無背景のものを、入学願書の写真貼付欄に貼る。)
(5)	卒業(見込)証明書	出身大学(学部)長が作成の上厳封したもの。 (ただし本学医学部卒業及び卒業見込の者は不要)
(6)	大学院修士課程修了 証明書及び成績証明書	修了見込みの者は修了見込証明書(大学院修士(博士前期)課程修了者以外は不要) 出身大学研究科長が作成の上厳封したもの (ただし出願資格(1)に該当する者は不要)
(7)	医師・歯科医師免許証の写	医師・歯科医師免許取得者のみ。A4サイズにし提出すること。
(8)	臨床研修期間証明書	医師・歯科医師免許取得者のみ。 (ただし本学病院において臨床研修を行った者は不要)。 臨床研修期間を記載した証明書原本 (見込者含む、コピーは不可)。 臨床研修を行った医療機関において作成されたもの (別添記載例参照、 臨床研修期間を記載した在職証明書等も可)。 ※臨床研修修了証ではないので注意すること。
(9)	受 験 承 諾 書	教育方法の特例希望者。 <u>社会人受験者は、試験日時点で在籍している企業・研究所・病院・大学等の所属長が書いた受験承諾書〔様式任意〕</u> を提出すること。(ただし試験日時点で、本学常勤職員の身分を有している者又は本学常勤職員として内定(合格)している者は不要)
(10)	入 学 検 定 料	30,000円 (所定の振込用紙により振り込み、振込受入票を、取扱金融機関の押印を確認の上、写真票裏面の所定欄に貼ること。)
(11)	受験票送付用封筒	所定の封筒に郵便番号、住所及び氏名を明記し、所定料金の切手※を貼ること。(ただし本学所属の者は切手不要) ※所定料金の切手：定型郵便物(100g以内)＋簡易書留料金 (令和5年9月30日までは460円)
(12)	戸籍抄本(本人分)	大学等卒業から出願までに結婚等で氏名に変更が生じ、成績証明書等出願書類と異なる場合は戸籍抄本(本人分)を提出すること。
(13)	住民票写(外国人のみ)	市区町村長の発行したもの(在留資格記載のもの)
(14)	パスポート・在留カードの写(外国人のみ)	パスポート及び在留カードの写し(カラー)を提出すること。

注 1 所定の出願書類等の送付を希望する場合は、返信用切手※を添えて下記 13 の照会先へ申し込むこと。 ※返信用切手：210 円 [定形外郵便物（規格内・重量 150g 以内）料金]

注 2 記入に当たっては、楷書で明瞭に、黒色で記入すること。不備な書類は受理しない。

注 3 出願書類等は一括して持参するか、又は必ず所定の封筒によって簡易書留速達郵便で送付すること。

注 4 いったん受理した入学検定料及び出願書類等は、返還しない。

5 選 考 方 法

学力試験とともに面接試問を実施し、基礎学力及び専門知識の他、本研究科の教育理念を理解していることを確認し、総合的に評価する。

試 験 場 所： 本 学

試験項目及び時間

試 験 項 目	時 間
外国語（英語）〔辞書使用可，電子辞書不可〕	10：00～12：00
面接試問（志望する専攻分野に関連する専門試験を含む。）	13：00～

注 外国人志願者の外国語試験は、英語一か国語のみによる試験又は英語及び日本語の二か国語による試験のいずれかを選択する。

6 入学手続書類等

(1)	学 納 金	350,000 円 (内訳は、入学金 (200,000 円) 及び前期分の学納金 (150,000 円)。7 項参照。銀行振込)
(2)	誓 約 書	所定の用紙を用いること。
(3)	身上調書	所定の用紙を用いること。
(4)	写 真	2 枚 (縦 4 cm×横 3 cm。提出前 3 か月以内に撮影した無帽正面上半身無背景のもの、うち 1 枚は身上調書の写真貼付欄に貼り、他 1 枚は裏面に氏名を記入して提出する。)

注 指定の期日までに上記の手続きを完了しないときは、入学を許可しない。

7 入学金及び学納金

入 学 金	学 納 金		合 計
	授業料（年額）	教育充実費（年額）	
200,000 円	200,000 円	100,000 円	500,000 円

注： 入学手続完了者が、止むを得ない理由で入学を辞退する場合には、2024 年 3 月 29 日（金）17 時まで（必着）に入学辞退届書を提出した者に限り、納入金のうち入学金（20 万円）を差し引いた額を返還します。

8 奨学制度

- (1) 在学区分等により入学金及び学納金を免除することがある。
この場合、確定申告が必要となる場合がある。
- (2) 学業成績優秀で、経済的理由等のため学納金の納付が著しく困難な学生には、選考の上、学納金を免除することがある。
- (3) 申請により、日本学生支援機構による奨学金を受けることができる。
- (4) 注 在学区分等の詳細については、下記 12 の照会先にお問い合わせください。

9 学生教育研究災害傷害保険

本学は、正課中の不慮の災害事故に対する補償制度である「学生教育研究災害傷害保険」に関する賛助会員大学になっており、入学後は、安心して教育研究活動ができるよう、本保険に全員加入（保険料 4 年間分 3,370 円）することになっている。

10 教育方法の特例

教育方法の特例希望者は、専攻予定授業科目の研究指導教授にその旨を申し出てください。

この制度の適用を受ける者については、夜間等に授業及び研究指導を受けることができます。

11 個人情報について

提出書類に記載された個人情報については、2024 年度(令和 6 年度)本学大学院医学研究科入学試験に係る合否判定資料の作成及び受験票、合格通知の送信以外には使用しません。

12 新型コロナウイルス等感染症対策における連絡事項

新型コロナウイルス（COVID-19）等感染拡大の状況によっては、既に公表している試験内容を変更して実施することがあります。入学試験の日程・実施方法などの変更が生じた場合は、本学ホームページにて随時お知らせいたしますので、出願にあたっては、必ず本学ホームページにて最新情報を確認してください。

URL : <https://www.aichi-med-u.ac.jp/>

13 出願書類等提出先及び照会先

愛知医科大学医学部事務部教務課

〒480-1195 愛知県長久手市岩作雁又 1 番地 1

電話（0561）62-3311（代）

専攻	授業科目	指導教授	研 究 内 容
基礎医学系	細胞生物学 (生物学)	武 内 恒 成	・中枢神経再生に関わる神経細胞接着分子と細胞外マトリックスおよび再生医療 ・神経回路形成および再編成の分子メカニズム ・細胞機能と分子イメージング技術 ・遺伝子改変による細胞工学と細胞治療・炎症抑制のための技術開発
	解剖学	内 藤 宗 和	・ウルトラファインバブルの医療応用 ・灌流装置を用いた細胞・臓器の再生 ・臨床解剖学
	生理学	増 潤 悟	・病態生理学における生物時計の役割 ・炎症性細胞の病態生理機能の解明と創薬研究 ・卵巣組織内生理現象のライブイメージング解析 ・運動による転写制御機構の解析
		佐 藤 元 彦	・三量体G蛋白を介する情報伝達機構 ・病態下の情報伝達異常 ・病態制御分子を標的とする化合物の探索
	生 化 学	細 川 好 孝	・造血管腫瘍・悪性中皮腫の分子生物学的研究 ・癌のゲノム研究 ・アポトーシスの分子機構の解析 ・遺伝子編集技術の開発と臨床応用
	薬 理 学	【細 川 好 孝】	・ストレス応答の分子基盤となる脳内機構の解明 ・生体エネルギー代謝について
	病 理 学	笠 井 謙 次	・人体病理学 ・分子病理学 ・悪性腫瘍のシグナル伝達異常と分子病態
	感 染・免 疫 学	高 村 祥 子	・病原体認識機構 ・免疫防御と恒常性維持 ・脂質による免疫応答への影響について ・抗体遺伝子について
	衛 生 学	鈴 木 孝 太	・地域や職域における健康関連データを活用した疫学研究 ・妊娠前から小児期にかけての能動・受動喫煙の健康影響に関する研究 ・行動変容が健康状態に及ぼす影響の検討 ・リアルワールドデータを用いた疫学研究
	公 衆 衛 生 学	【鈴 木 孝 太】	・胃がんと Helicobacter pylori に関する疫学研究 ・胆道がんと膵がんに関する（分子）疫学研究 ・疫学研究、臨床研究のデザイン
	法 医 学	妹 尾 洋	・HPLC/MS, GC/MSによる薬毒物同定に関する研究
	医学・医療教育学	早 稲 田 勝 久	・医学教育総論 ・医学教育における学修者の評価 ・カリキュラム開発と評価 ・教授法と学修 ・医学教育の実践
	加 齢 医 科 学	岩 崎 靖	・中枢神経系の老化に関する病理学的研究 ・神経変性疾患の臨床病理学的研究 ・プリオン病の臨床病理学的研究
	神経病態・幹細胞生物学	岡 田 洋 平	・多能性幹細胞（ES細胞・iPS細胞）の樹立と培養 ・神経発生学と多能性幹細胞の神経分化誘導 ・神経変性疾患の疾患モデル作製 ・疾患特異的 iPS 細胞を用いた病態解析 ・iPS 細胞を用いた創薬開発
	分 子 医 科 学	渡 辺 秀 人 (令和6年3月定年退職予定)	・炎症と腫瘍浸潤における細胞外マトリックス分子の役割 ・細胞外マトリックス分子、特にプロテオグリカンの構造、生体内機能および各種病態への関与 ・グリコサミノグリカンの合成機構と生理機能
臨床医学系	内 科 学	春 日 井 邦 夫	・機能的消化管疾患の病態と治療 ・消化管癌に対する内視鏡治療 ・消化管粘膜障害・修復メカニズムの研究 ・炎症性腸疾患の病態と治療 ・慢性便秘症の病態と治療
		伊 藤 清 顕	・肝胆膵疾患の病態と治療 ・ウイルス性肝炎 ・非アルコール性脂肪性肝疾患 ・脳腸相関 ・メタボリックシンドローム
		天 野 哲 也	・虚血性心疾患の病態・治療 ・心臓の電気生理、不整脈の治療 ・メタボリックシンドロームの病態・治療
		伊 藤 理	・呼吸器疾患の遺伝素因と免疫病態 ・肺胞蛋白症の病態 ・肺がんにおける免疫関連分子の発現と臨床像の関連 ・呼吸器メカノバイオロジー
		神 谷 英 紀	・2型糖尿病の病態と治療に関する研究 ・糖尿病性合併症の発症機序の研究 ・糖尿病性神経障害の新たな治療法の開発に関する研究 ・膵島移植の治療効果向上を目指した研究 ・内分泌細胞における小胞体ストレスと細胞生存に関する研究

※【 】は研究指導教授代理

専攻	授業科目	指導教授	研 究 内 容
臨 床 医 学 系	内 科 学	道 勇 学	・神経変性疾患の分子病態研究 ・神経変性メカニズムの臨床応用研究 ・虚血性脳卒中の実践的および縦断的臨床研究
		石 本 卓 嗣	・CKD・DKDの進展における糖・尿酸代謝の役割と新規治療法の開発 ・ネフローゼ症候群の診断・活動性評価のバイオマーカーの開発 ・腎疾患における蛋白尿発現のメカニズムの解明 ・腹膜透析の腹膜機能障害のメカニズムの解明と対策について ・関節リウマチ肺病変の臨床像と呼吸器感染症の重症化に関わる因子 ・リウマチ膠原病疾患の診断・活動性評価のバイオマーカーの開発
		高 見 昭 良	・造血器腫瘍の病態と治療 ・造血器腫瘍の増殖動態とエネルギー代謝 ・多発性骨髄腫発症と進展の分子メカニズム ・造血幹細胞移植
	精 神 科 学	【道 勇 学】	・内因性精神病の分類について ・非定型精神病の精神病理学と画像診断的研究 ・精神症状の推移に関する臨床研究 ・側頭葉てんかんの選択的呼称障害
	小 児 科 学	奥 村 彰 久	・小児神経疾患の遺伝学的解析 ・小児造血器腫瘍細胞の生物学的特性 ・小児アレルギー疾患の病態解析
	外 科 学	佐 野 力	・肝癌の治療選択 ・食道癌に対する外科治療 ・消化器疾患に対する低侵襲手術（鏡視下手術） ・膵・胆道癌に対する集学的治療
		松 山 克 彦	・心臓弁膜症の病態と外科的治療 ・虚血性心疾患の病態と外科的治療および心筋保護法 ・大血管疾患の病態と外科的治療 ・低侵襲心臓手術
		児 玉 章 朗	・下肢虚血性潰瘍の病態と治療 ・大動脈瘤に対するステントグラフト治療 ・下肢静脈瘤レーザー焼灼術の有用性 ・末梢動脈疾患患者の運動能力評価
		福 井 高 幸	・呼吸器腫瘍の病態と外科治療 ・縦隔腫瘍に対する外科治療 ・呼吸器低侵襲手術 ・肺腺癌と女性ホルモンの関連
		中 野 正 吾	・乳癌のホルモン依存性およびホルモン剤耐性機構の研究 ・遺伝性／家族性乳癌についての研究 ・乳癌および甲状腺癌の生物学的悪性度（特に乳癌の予後因子）についての研究 ・超音波 fusion 技術を用いた乳癌・甲状腺画像診断法の開発
		小 林 孝 彰	・日本と世界の移植医療の違い／腎移植の現状と課題 ・慢性抗体関連型拒絶反応の早期診断、治療 ・免疫抑制療法の適正化、個別化療法 ・免疫担当細胞の分化と増殖
	脳 神 経 外 科 学	宮 地 茂 (令和6年3月定年退職予定)	・低侵襲脳・脊髄脊椎手術の開発 ・頭部外傷における炎症メカニズムの研究 ・脳血管内治療法の新しい治療技術の開発 ・脳血管内治療支援ロボットの開発 ・脳腫瘍に対する新規治療法の開発
		原 政 人	・脊椎脊髄疾患の診断と外科治療 ・末梢神経絞扼障害の診断と外科治療 ・脊髄外傷の診断と治療 ・低侵襲手術に必要な手術機器開発
	整 形 外 科 学	高 橋 伸 典	・軟骨・半月板再生・治療 ・スポーツ障害の予防と治療 ・関節リウマチの病態と治療 ・骨軟部腫瘍の治療 ・脊髄神経の再生誘導 ・人工関節の基礎的研究と臨床応用
	皮 膚 科 学	渡 邊 大 輔	・単純ヘルペスウイルスの医学的応用 ・皮膚感染症学 ・発汗と皮膚 ・皮膚自然免疫
	泌 尿 器 科 学	佐 々 直 人	・尿路性器悪性腫瘍に関する人工知能を利用した研究（画像と病理） ・尿路性器感染症と薬物動態、臓器移行についての研究 ・排尿障害と女性骨盤臓器脱の病態と治療 ・尿路結石の発生と外科治療
	産 婦 人 科 学	若 槻 明 彦 (令和6年3月定年退職予定)	・婦人科腫瘍学 ・生殖内分泌学 ・性差医学 ・更年期医学 ・周産期医学
	眼 科 学	瓶 井 資 弘	・網膜血管再生に関するメカニズムの解明
	耳 鼻 咽 喉 科・ 頭 頸 部 外 科 学	藤 本 保 志	・嚥下訓練法開発と効果の検証 ・頭頸部癌における新規免疫治療の開発 ・難聴が社会生活に及ぼす影響 ・頭頸部癌治療後嚥下障害の解析 ・サルコペニアの嚥下障害の研究 - 筋病理を中心に -
	放 射 線 医 学	鈴 木 耕 次 郎	・総合画像診断及び画像解析 ・IVR(Interventional Radiology) の技術開発と臨床応用 ・三次元放射線治療

※【 】は研究指導教授代理

専攻	授業科目	指導教授	研 究 内 容
臨 床 医 学 系	麻 酔 科 学	【道 勇 学】	・自律神経活動と心拍変動 ・麻酔薬の循環系におよぼす影響 ・痛みと自律神経 ・超音波ガイド下局所麻酔法 ・局所麻酔薬の細胞毒性メカニズム ・敗血症病態に対するカテコラミン受容体の関与
	総 合 医 学	前 川 正 人	・生活習慣病の患者調査 ・循環器疾患の予防と治療 ・大学病院における総合診療の役割
	形 成 外 科 学	古 川 洋 志	・熱傷と瘢痕拘縮の分子科学的研究 ・皮膚レーザー照射の母斑に対する効果（臨床研究） ・リンパ浮腫の病態とリンパ節移植による治療
	救急集中治療医学	渡 邊 栄 三	・敗血症に関する臨床研究と基礎研究 ・重症病態における遺伝子多型の関与 ・播種性血管内凝固症候群と血栓性微小血管症 ・急性血液浄化法の適応と効果に関する研究 ・心肺停止後症候群に関する研究
	リハビリテーション医学	尾 川 貴 洋	・リハビリテーション医学・医療概論 ・内部障害のリハビリテーション診療 ・運動器疾患・脳血管障害のリハビリテーション診療 ・脊髄損傷のリハビリテーション診療 ・義肢装具療法・障害者スポーツ・社会支援におけるリハビリテーション診療
	臨 床 感 染 症 学	三 鴨 廣 繁	・感染症の診断と治療に関する研究 ・嫌気性菌感染症に関する基礎的・臨床的研究 ・真菌感染症に関する基礎的・臨床的研究 ・薬物動態学／薬力学 ・医療関連感染に関する研究
	病 理 診 断 学	都 築 豊 徳	・腫瘍病理学 ・分子免疫組織診断学 ・細胞診断学
	統 合 疼 痛 医 学	牛 田 享 宏	・疼痛評価：電気生理学的検査、画像評価、精神・心理評価、集学的評価の研究 ・治療法：疼痛薬物療法、疼痛外科治療・脊髄刺激療法、選択的ラジオ波・パルスラジオ波 治療、運動療法、心理療法：認知行動療法、頭痛・口腔領域疼痛マネジメントの研究など ・緩和疼痛マネジメント、緩和的ブロックの研究 ・運動器疼痛マネジメント（運動器の不動化や外傷後瘢痕拘縮による痛みなど） ・VRを用いた疼痛治療法の開発
	口 腔 外 科 学	風 岡 宜 暁	・顎口腔腫瘍 ・閉塞性睡眠時無呼吸症候群に対する歯科装具の効果 ・摂食嚥下機能 ・歯槽骨再生治療の臨床研究 ・画像解析技術を用いた再生骨評価法の開発 ・幹細胞スフェロイドを用いた新たな組織再生法の開発
	救 命 救 急 医 学	加 納 秀 記	・心肺蘇生学 ・災害と危機管理学 ・救急外来における感染症に関する研究 ・病院前救急医学 ・病院救命士のあり方についての研究
	新 生 児 学	山 田 恭 聖	・新生児呼吸器疾患の呼吸生理学 ・超早産児の循環管理と合併症予防 ・超早産児の経腸および経静脈栄養管理と合併症 ・早産児・新生児の内分泌適応障害 ・新生児の疼痛生理学と評価と緩和法
	が ん 治 療 学	久 保 昭 仁	・腫瘍学の基礎と分子生物学 ・がん薬物療法・分子標的治療・薬物動態・薬力学 ・固形癌の修学的治療 ・がんの遺伝子異常とがんゲノム医療
	緩和・支持医療学	森 直 治	・全人的苦痛に対する緩和医療 ・チームアプローチによる支持医療 ・がん患者の代謝変化・悪液質の病態解明と対策 ・サルコペニアの病態解明と対策
	戦略的先制統合医療・健康強化推進学	福 沢 嘉 孝 (令和6年3月定年退職予定)	・先制医療・統合医療を介しての全人的・包括的医療に関する研究 ・先制医療・統合医療における健康アウトカム評価（含、データマイニング、QOL 評価等） ・国際認証評価（WFME）における補完代替医療の位置付け（含、漢方医学教育） ・先制医療・統合医療を介しての効果的・効率的な医療連携（含、多職種連携） ・先制医療・統合医療（含、補完代替医療）を介する健康強化推進のストラテジー ・グローバルスタンダードに基づくメディカルツーリズム ・戦略的先制統合医療による健康寿命延伸（mRNA の分析応用した長寿遺伝子・種々がん遺伝子リスクの研究）
	災 害 医 学	津 田 雅 庸	・災害の種類と特性 ・災害医療の理論と実践 ・災害対応の大原則 C S C A T T T ・災害医療対応の P h a s e 別ニーズの変化と対応 ・地域や病院における医療機能維持
	造血細胞移植・細胞治療情報管理学	熱 田 由 子 (連携大学院)	・大規模レジストリに関するデータサイエンス ・造血細胞移植の臨床疫学研究 ・免疫細胞療法のアウトカム研究

※【 】は研究指導教授代理

